Oracle® Hyperion Reporting and Analysis

Addendum

リリース 11.1.2.3

ORACLE

ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Reporting and Analysis Addendum, 11.1.2.3

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて 5

第 1 章 目的 7

第 2 章 EPM Workspace 9

追加の EPM Workspace 全般プロパティ 9

EPM Workspace パラメータの説明 9

EPM Workspace ツールバー 10

「ナビゲート」メニュー 10

「ツール」メニュー 13

Smart View 管理拡張機能 13

EPM Workspace サーバー設定およびプリファレンスの設定 14

ログオン・ページのカスタマイズ 14

第 3 章 Interactive Reporting 17

電子メール・アドレス・セパレータ 17

結果へのダウンロード 17

フィルタ定義演算子 18

データベース合計のダウンロード 18

publishBqy メソッドの修正 18

スイング機能 19

バージョン管理された BQYDocument メソッド 19

getName() 19

getParentIdentity () 20

getPermission() 20

setPermission() 20

getSectionOCEMapping() 20

isADREnabled() 20

setADREnabled() 20

Interactive Reporting Studio ファイルのアップグレード 20

第 4 章 Production Reporting 21

SAP データ・ソース・アクセスの構成 21

第 5 章 Reporting and Analysis Framework 23
ファイルおよびフォルダの削除の追跡 23
実行中ジョブの取消し 23
バージョンを開く 24
拡張サービス 24

第 6 章 Web Analysis 27
メンバー選択の詳細設定 27
Web Analysis のドライバの追加 27
チャートのタイトル 28
Excel にエクスポート・ウィザード 28
SQL クエリー・ビルダー・ウィザード 29
HTML ファイルのインポート 29

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info か、聴覚に障害のあるお客様は http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs を参照してください。

1 目的

このドキュメントには、Oracle Hyperion Reporting and Analysis 製品および Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace に関する重要な更新情報が含まれています。これらの製品を使用する前に、このドキュメントをよく確認してください。

注： これらの製品の「ヘルプ」を選択したときに情報が表示されない場合は、「検索」を使用して必要な情報を探してください。

2 EPM Workspace

この章の内容

追加の EPM Workspace 全般プロパティ 9
EPM Workspace パラメータの説明 9
EPM Workspace サーバー設定およびプリファレンスの設定 14
ログオン・ページのカスタマイズ 14

この章には、EPM Workspace のガイドとヘルプの更新が含まれます。

追加の EPM Workspace 全般プロパティ

次のプロパティは、EPM Workspace の全般プロパティに含まれるようになりました。

表 1　追加された EPM Workspace の全般プロパティ

プロパティ	説明
ログオン時にユーザー名を記憶	「はい」に設定すると、正常にログオンした後にユーザーの名前が記憶されます。デフォルト値は「はい」です。

HTTP 要求 URL のログイン情報の受入れ	「いいえ」に設定すると、要求パラメータ `sso_token`、`sso_username` および `sso_password` は HTTP 要求 URL で無視されます。これらのパラメータは HTTP POST 要求本文でのみ受け入れられます。デフォルト値は「いいえ」です。
	動作を停止する URL の例:
	`http://host:port/workspace/?`
	`sso_username=admin&sso_password=mypassword`

EPM Workspace パラメータの説明

EPM Workspace パラメータの説明は、詳細な情報、および他のガイド内の詳細情報への参照を含むように更新されています。次の EPM Workspace テーブルはこの補遺で更新されています。

- EPM Workspace ツールバー
- 「ナビゲート」メニュー
- 「ツール」メニュー

EPM Workspace ツールバー

表 2　EPM Workspace ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	NA	「プリファレンス」ダイアログ・ボックスの「デフォルトの起動オプション」から選択した「ホーム」ページを開きます(Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide の全般プリファレンスの設定に関する項を参照してください)。

「ナビゲート」メニュー

表 3　「ナビゲート」メニュー

コマンド	説明
● アプリケーション ○ 連結(Oracle Hyperion Financial Management アプリケーション) ○ Planning (Oracle Hyperion Planning アプリケーション) ○ Oracle Hyperion Performance Scorecard ○ Profitability (Oracle Hyperion Profitability and Cost Management アプリケーション) ● Oracle Business Intelligence Enterprise Edition ○ Oracle Business Intelligence アンサー ○ Oracle Business Intelligence インタラクティブ・ダッシュボード ○ Oracle Business Intelligence デリバー ● Oracle Business Intelligence Publisher **注：** インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーがアプリケーション・インスタンスに対してプロビジョニングされていない場合、「ナビゲート」メニューから「アプリケーション」を選択すると、「アプリケーションなし」が表示されます。「アプリケーションなし」は、アプリケーション・インスタンスに対してプロビジョニングされていないユーザーが「ファイル」、「開く」、「アプリケーション」の順に選択した場合にも表示されます。 「リフレッシュ」メニューは、常に「アプリケーション」メニューにともに表示されます。	選択したアプリケーションを開きます。使用可能なアプリケーションのリストは、インストールされているアプリケーション、およびユーザー権限と役割によって決まります。

コマンド	説明
● エクスプローラ	エクスプローラを使用して、次のことを行います。 ● リポジトリの表示およびナビゲート ● ファイルおよびフォルダの管理および制御 ● リポジトリをファイル管理システムとして提示する「開く」ダイアログ・ボックスと同様に、要素を使用します。 詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。 **注：** ユーザーのロール、アクセス権および権限は、リポジトリのどのアイテムを表示、変更、実行、または削除できるかを決定します。インストールされている Reporting and Analysis モジュールにより、ユーザー・インタフェースのどの部分が表示されるかが決まります。 その結果、一部のドキュメントはコンテンツ領域に表示され、その他を独自のスタジオで開くこともできます。たとえば、ドキュメントを常に Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client で開くように Oracle Hyperion Interactive Reporting を設定できます。
● Workspace ページ ❍ マイ Workspace ページ ❍ 共有 Workspace ページ	「Workspace ページ」を使用すると、Oracle ソースおよび Oracle 以外のソースから EPM Workspace リポジトリのコンテンツを作成、編集および集約して 1 つの環境にまとめることができます。 マイ Workspace ページは、ユーザーが作成するカスタマイズされた EPM Workspace ページです。これらのページには特殊なマークが付くため、リポジトリに移動する必要なく、1 つの場所から簡単にアクセスできます。任意のフォルダに保管できるマイ Workspace ページへのショートカットを作成できます。 共有 Workspace ページはシステム・フォルダに保管され、許可されたユーザーがエクスプローラからアクセスできます。 Workspace ページの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

コマンド	説明
● 管理 ❍ Shared Services Console ❍ Workspace サーバー設定 ❍ Reporting and Analysis ❑ 全般 ❑ サービス ❑ Web アプリケーション ❑ エージェント ❑ Production Reporting エンジン ❑ Production Reporting データベース・サーバー ❑ 汎用ジョブ・アプリケーション ❑ パススルー構成 ❑ 物理リソース ❑ MIME タイプ ❑ 通知 ❑ 所有権の変更 ❑ 使用追跡 ❑ イベント追跡 ❑ 行レベルのセキュリティ ❍ 注釈 ❍ 次元ライブラリ ❍ アプリケーション・ライブラリ ❍ データの同期 ❍ Calculation Manager ❍ クラシックから EPM Architect への変換 ❍ ライブラリ・ジョブ・コンソール ❍ インタフェース・データ・ソースの構成 ❍ 連結管理 ❍ Planning アプリケーション	管理モジュールを使用して、エンド・ユーザーが EPM Workspace を操作する方法に対する設定を管理します。これらのメニュー・アイテムの使用方法の詳細は、次を参照してください。 ● Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide ● Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide ● Oracle Hyperion Financial Management Administrator's Guide ● Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide
● スケジュール ❍ バッチ・スケジューラ	「スケジュール」を使用して、ジョブの管理、自動処理のバッチおよびイベントのスケジュールを行うことができます。「バッチ・スケジューラ」を使用すると、ユーザーは Oracle Hyperion Financial Reporting バッチのスケジュールを作成および編集できます。 「スケジュール」の使用の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

コマンド	説明
● インパクト・マネージャ ○ メタデータの同期化 ○ データ・モデルの更新 ○ JavaScript の更新 ○ カスタム更新 ○ タスク・リストの管理 ○ タスク・ステータスの表示 ○ 変更の影響の表示	インパクト・マネージャを使用して、データベース構造、データベース接続、または外部データ・ソースへのリンクが変更されたときに、Interactive Reporting ドキュメントを更新します。インパクト・マネージャの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide および Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide を参照してください。
アイテムを開く(開いたモジュールのリスト)	EPM Workspace で開いたアイテムを表示します。

「ツール」メニュー

表 4 「ツール」メニュー

コマンド	説明
● パスワードの変更	● ユーザーがパスワードを変更できるようにします。管理者はこのオプションを無効にできます。外部ディレクトリ・サーバーを使用してユーザー情報を格納している組織も、このオプションを無効にできます。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide のネイティブ・ディレクトリ・パスワードの変更に関する項を参照してください。
● インストール ○ Oracle Hyperion Smart View for Office ○ Strategic Finance クライアント ○ Interactive Reporting Web Client ○ Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ○ オフライン・プランニング ○ Smart View 管理拡張機能	● 製品インストールのオプション。管理者はこのオプションを無効にできます。 **注：** 使用可能なアプリケーションのリストは、インストールされているアプリケーション、およびユーザー権限と役割によって決まります。
リンク	使用可能な場合は、他のツールへのリンク。

Smart View 管理拡張機能

「インストール」メニューには、新しいオプションである Smart View 管理拡張機能が含まれます。この拡張機能により、Oracle Hyperion Smart View for Office の Planning メタデータを使用したいくつかの管理タスクをスピーディに実行できます。

- Planning 次元のインポート

- Planning メンバーの編集、追加および移動
- 共有メンバーの指定
- Oracle Hyperion Planning データベースの作成およびリフレッシュ

詳細は、Oracle Hyperion Smart View for Office User's Guide を参照してください。

EPM Workspace サーバー設定およびプリファレンスの設定

EPM Workspace サーバー設定およびプリファレンスを設定するためのメニュー・アイテムが変更されました。「Workspace 設定」を選択すると、両方の Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace プロパティを使用できます。

➤ EPM Workspace サーバー設定およびプリファレンスを設定または変更するには:

1 「ナビゲート」、「管理」、「Workspace 設定」の順に選択します。

2 いずれかのオプションを選択します。
   - サーバーのプロパティを設定または編集する場合は、「サーバー設定」
   - プリファレンスを設定または編集する場合は、「プリファレンスの管理」

ログオン・ページのカスタマイズ

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide のログオン・ページのカスタマイズに関する項の手順で、間違ったファイル名が使用されています。その手順を、次の手順に置き換えてください。

➤ ログオン・ページをカスタマイズするには:

1 すべてのサービスを停止します。

2 ファイル`<EPM_ORACLE_HOME>/common/bpmui-common/11.1.2.0/bpmui.jar` をバックアップします。

3 解凍ユーティリティを使用して、`<EPM_ORACLE_HOME>/common/bpmui-common/11.1.2.0/bpmui.jar` のコンテンツを`<temp directory>`に抽出します。

4 ファイル`<temp directory>/com/hyperion/bpm/Resources_en.properties` を編集します。

5 プロパティ `bpm.logonCopyright` を検索します。

6 等号(=)の右側のテキストを変更します。改行するには、`\n` を使用します。

7 変更を保存します。

8 他のすべてのロケールの、その他すべての `Resources_xx.properties` ファイルに対して、手順 4 から手順 7 を繰り返します。

9 <temp directory>のコンテンツで jar ファイル<EPM_ORACLE_HOME>/common/bpmui-common/11.1.2.0/bpmui.jar を作成します。

10 すべてのサービスを起動します。

11 ブラウザのキャッシュを消去します。

3 Interactive Reporting

この章の内容

電子メール・アドレス・セパレータ 17
結果へのダウンロード 17
フィルタ定義演算子 18
データベース合計のダウンロード 18
publishBqy メソッドの修正 18
スイング機能 19
バージョン管理された BQYDocument メソッド 19
Interactive Reporting Studio ファイルのアップグレード 20

この章には、Interactive Reporting のガイドとヘルプの更新が含まれます。

電子メール・アドレス・セパレータ

電子メール・アドレスは、セミコロン、コロン、カンマまたは空白で区切ります。電子メール配布リストはセミコロンで区切ります。

結果へのダウンロード

Oracle Hyperion Interactive Reporting User's Guide の結果へのダウンロードに関する項で、リリース 11.1.1.xx で作成された Interactive Reporting ドキュメントを開く場合の注意が正しくないリリース番号で終了しています。注意は次のように読む必要があります。

CubeQuery、リリース 9.3.1.xx からダウンロードされた結果内のデータを含む Interactive Reporting、リリース 11.1.1.xx ドキュメントを開いた場合、既存の結果データは表示されません。また、Interactive Reporting、リリース 11.1.1.xx ドキュメントで「結果にダウンロード」を使用した場合の結果セットは、Interactive Reporting、リリース 9.3.1.xx で実行した場合の結果セットと同じではありません。

Oracle Hyperion Interactive Reporting User's Guide の結果へのダウンロードに関する項では、「結果へのダウンロードの動作は CubeQuery コンポーネントによって異なります」の後のリストに「不規則階層」への参照が含まれる必要があります。改訂されたリスト:

- 個別の列
- メジャーの動作

- 不規則階層
- 共有メンバー
- 合計を含む

不規則階層の詳細は、Oracle Hyperion Interactive Reporting User's Guide の不規則階層に関する項を参照してください。

フィルタ定義演算子

フィルタ定義での「等しい」演算子と「含む」演算子の使用を明確にするために、Oracle Hyperion Interactive Reporting User's Guide の演算子の使用に関する項のこれらの演算子の定義を次の定義で置き換えます。

表 5　変更された演算子の定義

演算子	説明
等しい(=)	フィルタを設定したアイテムが、指定した値と厳密に一致する場合にレコードを取得します。たとえば、「等しい」演算子を使用して在庫アイテムをフィルタし、値"ball"を指定した場合、フィルタは"ball"アイテムのみを返します。"volleyball"や"ball pump"などは返しません。
含む	フィルタを設定したアイテムが、指定した値をどこかに含んでいる場合にレコードを取得します。たとえば、「含む」演算子を使用して在庫アイテムをフィルタし、値"ball"を指定した場合、フィルタは"ball"アイテムと、"volleyball"や"ball pump"など、名前に"ball"を含む他のアイテムを返します。

データベース合計のダウンロード

Oracle Hyperion Interactive Reporting User's Guide のデータベース合計のダウンロードに関する項で、次の注意が正しくないリリース番号で終了しています。注意は次のように読む必要があります。

リリース 9.3.1.xx 以降の CubeQuery からダウンロードされた結果内のデータを含む Interactive Reporting、リリース 11.1.1.xx ドキュメントを開いた場合、既存の結果データは表示されません。また、Interactive Reporting、リリース 11.1.1.xx ドキュメントで「結果にダウンロード」を使用した場合の結果セットは、Interactive Reporting、リリース 9.3.1.xx で実行した場合の結果セットと同じではありません。

publishBqy メソッドの修正

`publishBqy` メソッドは、Interactive Reporting ガイドで間違って `publishBqyFile` としてリストされています。

`publishBqy` メソッドは、Oracle Hyperion Interactive Reporting Object Model and Dashboard Development Services Developer's Guide, Volume VI: Dashboard Architect の Reporting and Analysis リポジトリ: リポジトリ・アーティファクトに関する項に記載されています。

注： Oracle Hyperion Interactive Reporting Object Model and Dashboard Development Services Developer's Guide, Volume VI: Dashboard Architect のリポジトリ・メソッドのリファレンスに関する項で、エントリ `publishBqyFile()` は `publishBqy()` である必要があります。

変更された例

```
var uuid = objRep.publishBqy(objF, strN, strD, uuiF, blnD, strH, oceP)

repLocal.publishBqy(filSrc, strTrg, strDesc, uuiFolder, blnD , strH, oceMapNew);

repLocal.publishBqy(filSrc, strTrg, strDesc, uuiFolder, blnD, strH, oceMapNew);
```

`publishBqy` メソッドは、Oracle Hyperion Interactive Reporting Object Model and Dashboard Development Services Developer's Guide, Volume V: Dashboard Studio のスクリプト作成のリファレンスに関する項にも記載されています。

注： Oracle Hyperion Interactive Reporting Object Model and Dashboard Development Services Developer's Guide, Volume V: Dashboard Studio のリポジトリ・メソッドのリファレンスに関する項で、エントリ `publishBqyFile()` は `publishBqy()` である必要があります。

スイング機能

Interactive Reporting Web Client を使用する場合、スイング機能はショートカット・メニューから使用できます。Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client にはスイング・ハンドルがありません。スイングの詳細は、Oracle Hyperion Interactive Reporting User's Guide を参照してください。

バージョン管理された BQYDocument メソッド

次の場所にある使用可能なメソッドのリストには次のメソッドが追加されています。

- Oracle Hyperion Interactive Reporting Object Model and Dashboard Development Services Developer's Guide, Volume V: Dashboard Studio のメソッドとプロパティのリファレンスに関する項
- Oracle Hyperion Interactive Reporting Object Model and Dashboard Development Services Developer's Guide, Volume VI: Dashboard Architect のメソッドとプロパティのリファレンスに関する項

getName()

リソース名を返します。

getParentIdentity ()

親カテゴリ ID を返します。親カテゴリがルートの場合、メソッドは null を返します。

getPermission()

リソースに関連付けられた権限オブジェクトを返します。

setPermission()

リソースに関連付けられた権限オブジェクトを設定します。メソッドでリソースが指定されていない場合は、すべての権限エントリが削除されます。

getSectionOCEMapping()

BQY ジョブに関連付けられている SectionOCE ペアの配列を返します。

isADREnabled()

ジョブまたはドキュメントが ADR に対して有効になっている場合は True を返します。

setADREnabled()

ADR 有効オプションの値を設定します。

Interactive Reporting Studio ファイルのアップグレード

Oracle Hyperion Interactive Reporting Studio、リリース 11.1.2.3.000 にアップグレードした後に、ファイルを更新する必要があります。

➤ Interactive Reporting Studio ファイルをアップグレードするには:

1 **Dashboard Studio を開きます。**

2 **「テンプレートからドキュメントを作成」を選択し、テンプレートを選択します。**

3 **「マージ」を選択して、BQY ファイルを(`MW_HOME\products\biplus\DDS\templates` にある)対応する Oracle Hyperion Interactive Reporting Studio テンプレート・ファイルとマージします。**

4 Production Reporting

この章の内容

SAP データ・ソース・アクセスの構成.....21

SAP データ・ソース・アクセスの構成

Oracle Hyperion SQR Production Reporting を構成して SAP Java Connector (SAP JCo) データ・ソースにアクセスするには、各 Production Reporting マシンに SAP JCo ファイルをインストールします。

➤ Production Reporting を構成して SAP をデータ・ソースとして使用するには:

1. **SAP JCo ファイルを SAP ディストリビューションから取得するか、登録済ユーザーとして SAP Web サイト(https://service.sap.com/connectors)からダウンロードします。**
2. **Microsoft Windows の場合: Production Reporting のインストール後:**
   1. SAP JCo バイナリを `EPM_ORACLE_HOME/common/SAP/bin` に配置します。
   2. SAP JCo Java アーカイブ(`.jar` ファイル)を `EPM_ORACLE_HOME/common/SAP/lib` に配置します。
   3. 適切なユーティリティを使用して、`EPM_ORACLE_HOME/common/ SAP/lib/explodejarUsingJRE.bat|sh` に `.jar` ファイルを展開します。
3. **UNIX の場合: Production Reporting のインストール後に、SAP JCo バイナリを `EPM_ORACLE_HOME/common/SAP/bin` に配置します。SAP JCo Java アーカイブ(`.jar` ファイル)を `EPM_ORACLE_HOME/common/SAP/lib` に配置します。**
4. **オプション: SAP を認証プロバイダとして使用するように Production Reporting を構成するには:**
   1. これらのファイルを、SAP Enterprise Portal EP60 SP2 以降から、`EPM_ORACLE_HOME/common/SAP/lib` にダウンロードします。
      - `com.sap.security.core.jar`
      - `com.sap.security.api.jar`
      - `sap.logging.jar`
      - `iaik_jce.jar`
      - `iaik_jce_export.jar` (エクスポート・バージョンの `IAIK-JCE` ライブラリを使用している場合)

2. インストール後に、適切なユーティリティを使用して、
   `EPM_ORACLE_HOME/common/SAP/lib/explodejarUsingJRE.bat|sh`
   に.jar ファイルを展開します。

5 Reporting and Analysis Framework

この章の内容

ファイルおよびフォルダの削除の追跡.....23
実行中ジョブの取消し.....23
バージョンを開く.....24
拡張サービス.....24

この章には、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework のガイドとヘルプの更新が含まれます。

ファイルおよびフォルダの削除の追跡

管理者はイベント追跡の新しい「フォルダ/ファイルの削除詳細を記録」オプションを使用して、フォルダおよびファイルの削除の詳細を取得できるようになりました。このオプションにより、ファイルまたはフォルダをいつ誰が削除したか、などの情報が提供されます。

➤ フォルダおよびファイルの削除の詳細を記録するには:

1 「ナビゲート」>「管理」>「Reporting and Analysis」の順に選択します。
2 「イベント追跡」を選択して、「フォルダ/ファイルの削除詳細を記録」をオンにします。
3 「適用」をクリックします。

実行中ジョブの取消し

Reporting and Analysis Framework には、現在実行中の Production Reporting ジョブ、Interactive Reporting ジョブおよび汎用ジョブのリストが表示されます。

➤ 実行中のジョブを取り消すには:

1 「スケジュール」、「実行中のジョブ」の順に選択して、現在実行中の Oracle Hyperion SQR Production Reporting ジョブ、Oracle Hyperion Interactive Reporting ジョブおよび汎用ジョブのリストを表示します。
2 取り消すジョブを右クリックし、「取消し」を選択します。

バージョンを開く

➤ アーティファクト・バージョンを開くには:

1 **エクスプローラから、バージョンを開くアーティファクトを右クリックし、「プリファレンス」を選択します。**

2 **「バージョン」を選択します。**

3 **開くバージョンを選択します。**

拡張サービス

拡張サービスを構成するには、次の手順を使用します。

➤ 拡張サービスを構成するには:

1 **Java サーブレット・プログラムをコンパイルします。**

Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework 開発者ガイドのサンプル・プログラムのコンパイルに関する項を参照してください。

注： この手順では、サーブレットが TestServlet で、ソース・ファイルが `TestServlet.java` であると想定します。

2 **Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション・サービスを停止します。**

3 **`raframework.ear` を変更します。このファイルにはサーブレット・クラスが含まれており、それをアプリケーション・サーバーに対して定義します。これを行うには:**

1. `%EPM_ORACLE_HOME%\products\biPlus/InstallableApps` に移動します。
2. `raframework.ear` のコピーを保存します。
3. .ear ファイルを一時ディレクトリにコピーし、WinZip や 7-zip などのユーティリティを使用して展開します。

   .ear ファイルの内容は、Manifest ディレクトリと `raframework.war` です。
4. `raframework.war` を展開します。このファイルで変更を行います。
5. 展開した `.war` ファイルから `WEB-INF` ディレクトリを開きます。
6. サーブレット・クラスを `WEB-INF` のクラス・ディレクトリにコピーします。
7. 他のタグがあるファイルにサーブレット宣言を追加することで、`WEB-INF` にある `web.xml` を編集します。

   この手順の例では、エントリは TestServlet と TestServlet です。
8. `raframework.war` を再びアーカイブします。
9. `raframework.ear` を再びアーカイブし、変更した `raframework.ear` を`%EPM_ORACLE_HOME%\products\biPlus\InstallableApps` にコピーします。

4 **Reporting and Analysis Framework への拡張サービスを定義する**

`services.properties` を変更します。

1. `\user_projects\epmsystem1\config\ReportingAnalysis` に移動します。
2. `services.properties` のコピーを保存します。
3. `service.properties` を編集します(Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework 開発者ガイドを参照してください)。

   この例では、次の 2 行をファイルの末尾に追加します。

```
sMenu.resource = TestServlet


sMenu.type=%NAMED%
```

   注： 行の後に末尾のスペースを残さないようにします。スペースがあるとファイルが間違って読み取られ、拡張サービスの実行時にエラーが発生します。

4. 変更したファイルを保存します。

5 `raframeworkweb.ear` を変更します。

追加の指示は、使用する TestServlet の `rmapi.jar` のコピーをロードするようアプリケーション・サーバーに指示します。

1. `%EPM_INSTALL_HOME%\common\raframework\11.1.2.0\lib` に移動します。

   このディレクトリには、マニフェスト・ファイルを含む `raframeworkweb.ear` が含まれます。

2. `raframeworkweb.ear` を編集する前に別の場所にコピーします。
3. この jar を展開してから `META-INF` に移動します。
4. `META-INF` で、`MANIFEST.MF` を編集し、`rmapi.jar` (`/lib/rmapi.jar`)を宣言する行を追加します。

   注： マニフェストでは、このエントリの後にスペースが必要です。スペースがないと、アプリケーション・サーブレットが動作しない可能性があります。他のファイル・エントリの書式をガイドとして使用します。`rmapi.jar` はすでにこの `lib` ディレクトリにあります。このファイルに参照を追加することのみ必要です。

5. `.jar` ファイルを再びアーカイブします。

6 **Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションを再起動します。**

Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework 開発者ガイドのガイドラインに従って、URL を使用して拡張サービスにアクセスします。ここで使用している例では、URL は次のとおりです:

```
http://workspace/ext/sMenu
```

6 Web Analysis

この章の内容

メンバー選択の詳細設定 27
Web Analysis のドライバの追加 27
チャートのタイトル 28
Excel にエクスポート・ウィザード 28
SQL クエリー・ビルダー・ウィザード 29
HTML ファイルのインポート 29

この章には、Oracle Hyperion Web Analysis のガイドとヘルプの更新が含まれます。

メンバー選択の詳細設定

「計算」ダイアログでメンバー選択の詳細設定を使用する場合は、「前/上」および「後/下」位置決めオプションのみ使用できます。「この前に挿入」および「この後に挿入」オプションは使用できません。

Web Analysis のドライバの追加

RDBMS をデータ・ソースまたはリレーショナル・ドリル・スルーとして使用している場合は、必要なドライバを追加します。

➤ Windows ドライバを追加するには:

1 `EXT_POST_CLASSPATH` 変数の更新値を `EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/deploymentScripts/setCustomParamsWebAnalysis.bat` に追加します。各 RDBMS ドライバ `.jar` ファイルを変数定義に別々に追加します。例:

```
set EXT_POST_CLASSPATH=C:/jdbcdrivers/db2java.jar;C:/jdbcdrivers/db2jcc.jar;C:/ jdbcdrivers/db2jcc_license_cisuz.jar;C:/jdbcdrivers/ojdbc14.jar;%EXT_POST_CLASSPATH%
```

このファイルの編集は、`EPM_ORACLE_INSTANCE/bin` の `startWebAnalysis.bat` を使用して開始された Web Analysis サービスにのみ影響します。

2 Regedit を使用して、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\WebAnalysis\HyS9WebAnalysis0\JVMOptionX` で `-Djava.class.path` 値を調べ、ドライバ・パスを追加します。たとえば、SQL Server の場合は、`C:\jdbc`

\msbase.jar;C:\jdbc\mssqlserver.jar;C:\jdbc\msutil.jar;C:\jdbc\sqljdbc.jar を追加できます。

.jar ファイルの完全リスト:

- Oracle: ojdbc14.jar
- DB2: db2java.jar、db2jcc.jar、db2jcc_license_cisuz.jar、db2jcc_license_cu.jar
- SQL Server: msbase.jar、mssqlserver.jar、msutil.jar sqljdbc.jar

3 **Web Analysis を再起動します。**

➤ UNIX 用のドライバを追加するには:

1 **EXT_POST_CLASSPATH 変数の更新値を EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/deploymentScripts/setCustomParamsWebAnalysis.sh に追加します。各 RDBMS ドライバ.jar ファイルを変数定義に別々に追加します。例:** EXT_POST_CLASSPATH=$HOME/jdbcdrivers/db2java.jar:$HOME/jdbcdrivers/db2jcc.jar:$HOME/jdbcdrivers/db2jcc_license_cisuz.jar:$HOME/jdbcdrivers/ojdbc14.jar:${EXT_POST_CLASSPATH} export EXT_POST_CLASSPATH。

2 **Web Analysis を再起動します。**

チャートのタイトル

次の注意は、Oracle Hyperion Web Analysis チャート・タイトルの編集の制限を明確にします。

注： バブル・チャートと 4 象限チャートでは、「ヘッダーのタイトル」、「フッターのタイトル」および「左のタイトル」のチャート・プロパティを編集できません。これらのプロパティの値は、現在の「データ・レイアウト」によって決まり、自動的に設定されます。

Excel にエクスポート・ウィザード

Oracle Hyperion Web Analysis Workspace User's Guide の Excel にエクスポート・ウィザードの手順 6 にある、「選択したビューごとに、エクスポートされたビューのプレビューが表示されます。」という記述は無視してください。この機能は現在使用できません。

同じ手順 6 の「a」の部分には、「ページ次元のチェック・ボックス・アイテムのリストを表示してから、エクスポートに含める各ページ次元メンバーの横にあるボックスを選択します。」と記載されています。

SQL クエリー・ビルダー・ウィザード

Oracle Hyperion Web Analysis Studio User's Guide の SQL クエリー・ビルダー・ウィザードに関する項には、ウィザードの使用に関する次の注意が含まれている必要があります。

注： SQL クエリー・ビルダー・ウィザードを使用している場合は、選択文のみ使用できます。

HTML ファイルのインポート

Oracle Hyperion Web Analysis Studio にインポートしたファイルは、Microsoft Word または Microsoft PowerPoint を使用して開く必要があります。インポートされたファイルはイメージ・ファイルの場合があり、`.doc`、`.ppt` または`.html` 拡張子を持つ場合がありますが、ファイルは Microsoft Word または Microsoft PowerPoint で開く必要があります。